

’14年12月18日

## 日本の海岸線を歩く会 行動報告書

報告者 友松知宏

### 1. 概要

地域分類	山陽道東進一3
歩行区間	スタート地点 : JR山陽本線光駅
	ゴール地点 : JR山陽本線廿日市駅
実施期間	’14. 11. 09(日)~12(水)
歩行距離	107.8 km

### 2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	友松知宏	74歳	4日	8期
2		友松和子	75歳	1日	—
3					

### 3. 歩行の概要

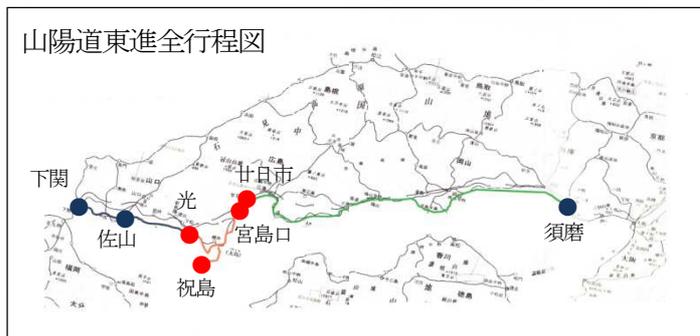
	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	11/09	JR山陽本線光駅~柳井駅	25.3 km	友松	夜、和子合流
2	11/10	知宏) 柳井駅~上関室津	18.3 km	友松	知宏と合流
		和子) 柳井=バス=上関(上関観光) ~上関大橋~室津	1.3 Km	和子	
		室津=バス=上関(船着き場前)			
		上関(船着き場前)~上盛山(往復) 上関=船=祝島(民宿くにひろ)	6.7Km		
3	11/11	祝島=船=柳井港~JR岩国駅	30.8Km	知宏	和子は柳井港で別れ
4	11/12	JR岩国駅~JR二十日市⇒米子へ	25.9Km	友松	

合計 108.3Km

### 4. 参加費

JR往復運賃(米子~光、二十日市~米子)	19,860円
室津~上関バス(1人分)	170円
上関~祝島~柳井港船運賃(1人分)	2,500円
宿泊費3泊(友松分)	22,616円
食事代	7,800円
合計	52,946円

5. 地図 (JR 光駅~JR 廿日市駅)



## 6. 歩行概要

山陽道東進第3区JR山陽本線光駅～上関、祝島経由～山陽本線廿日市光駅約108Kmを歩いた。

和子（友松の妻）が1日2泊を同行、コースのうち、上関～室津（約2Km）を分担した。

計画では岩国錦帯橋と安芸厳島神社観光を入れていたが、時間的に難しいので、翌週、米子からの観光バスツアーに乗ることにして、歩行コースからは外した。そのかわり、終点を、予定した宮島口から廿日市まで延長した。

祝島の「平さんの棚田」を見るつもりでいたが、自動車等がまったく使えず、行くことができなかった。次回の歩行で、いま一度祝島にわたり、棚田を見ようと思う。

## 7. 詳細・写真

11月 9日（日）午前小雨、午後くもり

05:40 伯耆大山駅発（やくも2号）⇒07:47岡山駅発（のぞみ）⇒08:42広島発（ひかり）⇒09:29徳山発⇒09:43光駅着

10:00 光駅発。ポンチョと菅笠スタイルで出発。

55 光市役所前、写真休憩。

11:20 冠山総合運動公園まえ。公園の入り口にバラ園と地中海風のレストランがあり、ちょうどバラの見ごろになっていたが、予定していなかったなので、入口部分だけ写真を撮り、通過。

しばらくすると、石垣を積んで棚田にしているところがある。明日の宿泊予定地祝島の棚田が有名だが、こんなものだろうか。

12:50 室積海水浴場にさしかかり、国道をはなれて、海岸沿いに歩く。

時間があつたらふるさと郷土館を見学するつもりでいたが、海水浴場の松林を歩いたりして時間を使ったので、パス。



JR光駅と光市役所



冠山総合運動公園バラ園



国道わきの棚田

14:35 室積東伊保木の海岸沿いの国道わきの一軒家のような「レストラン灯台」。客が入っている様子はないし、明かりもついていないようだが、看板に味の店とあるし、当分店もなさそうなので、入ることにした。声をかけると、奥からおばちゃんがでてきて、その後に亭主もでてきてラーメンの注文を受け付けてくれた。予想に反して意外にうまく、気を許しておばちゃんと話し始める。訊けば65歳とのこと、こちらの年齢をあてさせたら、60歳と言う。お世辞でなく本気で言っていることがわかり、すっかり気を良くし、メッセージを書いてもらう。600円をおき立ちあがったら、頑張ってねとミカンを2個くれた。

15:30 百面相岩

しばらく歩くと、前方に奇妙な岩が見える。海のなかからカップの化け物が乗り出して、国道を通る車を見降ろしているように見える。近づくにつれて、岩の細部が見えてきて、

驚いた。男の顔が見え、観音様の横顔が見え、犬の顔があらわれ、肩をあらわにした女性のバスト（胸像）になり、真横からみたらミッキーマウスである。標識も何もないので、勝手に百面相岩と名づけた。

写真をとれるスペースをつくり、看板をあげたら結構な観光スポットになるのにもったいない。あやしげなしめ縄をかけた「女男岩」なんぞよりずっと面白い。

15:40 梶取（かんどり）岬

道が大きく左にカーブし、光市とはお別れである。



梶取岬



百面相岩

17:30 田布施川

夕暮れが迫り、道を急ぐ。橋のなかほどで、国道橋のすぐ左にもう1本別の橋がかかっており、その西詰めが取り去られて、途中までしかないことに気がついた。柳井側詰めに何かかかっていると思うのだが、予定が遅れており素通りした。

19:00 JR 柳井駅に到着。駅南から駅に接近するが、わかりづらく、横断歩道に居合わせた女性に道を尋ねた。その方も駅に行くということで、目の前にはあるはずの柳井駅に案内して頂く。駅舎は北側で、エレベーターにのり、地下道をくぐったりして、案内してもらわなければ、まだしばらく迷っていただろう。ちょっとガラッパチの気さくな女性で、駅までの5分ばかりのあいだに由宇から嫁にきていることなど、個人的なことまでお聴きした。お陰さまで駅前で和子と合流。駅前のグランドホテルに荷物をあずけ、最寄りの「魚民」で夕食をすませ、景観街を散策した。



柳井景観街

11月10日（月）晴れ

07:10 柳井駅出発

和子はバスで上関に直行し、町の景観を観光し、室津までバスで戻る。知宏は室津まで約19Kmを歩行しそこで落ち合うことにする。

昨夜、案内してもらった経路で駅南に行くが、また道を見失って、結局、計画とは別のルートで1kmほど宇回して、予定のルートに乗り、室津半島の東海岸を南下する。

#### 09:15 伊保庄

裏道を歩行。ちょっとした祠があり、写真を撮ろうとしたら、色が出ない。いろいろやってみるが、元にもどらず、あきらめて歩行を続ける。

セブンイレブンを見つけ、サンドウィッチを買い、朝食。建物の壁にもたれて地べたに座り、食事をしていると、目の前に車を駐めて降りてきた方（吉本 薫さん）と10分ほどお話しして、40分遅れで出発した。

#### 10:10 柳井医療センター前

このあたりから登り道となり、海岸から離れる。阿月トンネルをくぐると海岸にくだる。湯原海水浴場から再び登り道となり、半島を横断。40分ほどで峠を越える。

下りきった尾国から西海岸を南下。1時間の遅れ。和子と電話連絡。「上関の街なみ観光がおわったので、歩いて（待ち合わせ予定の）室津に行く」と言う。

#### 12:10 シーサイドホテルがある岬で上関町に入る。このあたりから、今日の目的地である上盛山が見えてくる。道に、室津名物のてんぷら（魚の練もの）の店の看板があり、室津に着いたらてんぷらを買おうと、疲れた身体を励ます。

中国電力の原発建設事務所の建物が眼についた。



阿月（東岸）



室津半島を横断、峠



室津バス停、背景が上盛山

#### 13:00 室津船着き場着

最後の200mほど昔の通りを歩く。和子がベンチに座っているすぐ後ろに出た。

すぐ近くにてんぷらの店があり、1袋を買って、乗船場のベンチを借りて昼食。

見学予定であった四階館は月曜日で休館。

#### 13:41 上関行きバスに乗車。歩く予定であった上関大橋をバスで通る。

#### 13:50 上関船着き場の待合室に荷物を置いて、上盛山（315m）に登る。町役場の横から入り、細い路地を登る。道が入り組んで地図はまったく用をなさない。集落をすぎたところで自動車道に出る。運よく「頂上へ」標識を見つけ、踏み跡がある森の道に入る。むかしの道らしく、軽トラが通れるていどの舗装がしてあるが、今は使われていないらしく、草に覆われている。50分ほどで再び自動車道にでて、最後にヘアピンをまがると頂上である。

## 15:00 上盛山

頂上はきれいに整備され、灯台と間違えそうな白い塔（展望台）がある。ここからは360度の視界があり、九州や四国を望むことができるのだが、あいにく雲がでて、遠望がきかない。

頂上に10分ほどいて、元きた道を下り、上関の乗船場に戻る。時間が迫っていたのと疲れで、乱暴な歩き方になり、左足親指爪を痛める。

## 16:20 上関より祝島行きに乗船。昼にバスで通った大橋をくぐり、外海にでると、スピードがあまり揺れが大きくなる。



上盛山展望台



上関町の風景



祝島行きへ乗船

## 16:50 祝島

民宿くにひろのご夫婦が迎えにでてくださっていた。細い道が入り組んで、案内してもらわないと迷いそうである。宿に荷物をおくと、さっそくご主人に近くを案内してもらおう。

練塀が美しい。本来は強い風雨を避けるためのものであるが、いまはこの島のシンボルとして、観光客を呼ぶ大事な観光資源である。

この島は古代から瀬戸内海運の要衝で、船乗たちに神が住む島と信じられていた。いまも年1回、神事があり、その時に使う船を見せて頂いた。

島にはもう一つ見るべきものがある。通称「平さんの棚田」である。ここも見る予定であったが、徒歩でしか行けず、夜になってしまうので、計画からはずした。

### 以下平さんの棚田紹介（祝島HP／祝島ネット21会報42号より抜粋）

祝島の集落から徒歩で約1時間、眼下に伊予灘を見おろす山の斜面に「平さんの棚田」があります。一段の高さが最大で9mにもおよぶ巨大な石垣が築かれ、まるで城壁のようにそびえる三段の棚田が造られています。この棚田で50年以上お米を作り続けておられるのは、平萬次さん（80歳）。今も、毎日のようにテラー（耕運機の後ろに荷台を牽引した乗り物）に乗って、この棚田に通い、農作業をされています。

萬次さんの祖父・亀次郎さんは「コメさえあれば人間は生きていける。子孫が食べていくのに困らないように」と、大正時代の終わり頃、まだ原野だったこの地を開拓し、棚田を造り始めました。急な斜面でしたが「将来は米作りも機械化される時代が来る」と予測し、機械が入れるようにできるだけ広い田を作ろうと考えたそうです。斜面に広い田を造るには、必然的に高い石垣を築かなければなりません。まだ重機も無い時代、大きいものでは直径が1m以上もある石をテコを使って人力で一つ一つ動かしながら、30年間家族だけでコツコツ

と積み上げて現在の棚田が出来ました。萬次さんも中学生の頃から、その作業を手伝っていたそうです。今も使われている作業小屋は、亀次郎さんが松を切り出して自力で組み上げたもの。棚田を築いていたときはここに寝泊まりして作業されたようです。（以下略）



國弘さんの案内で散策



平さんの棚田（HP から採録）



翌朝、ご夫妻の見送りで船出

11月11日（火） 晴れ／くもり

06：45 祝島出航

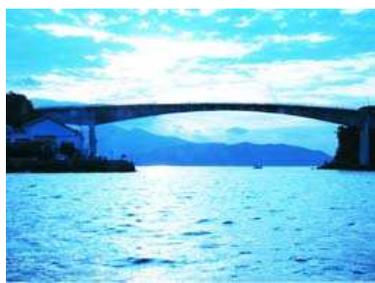
まだ陽が昇るまえに出発。くにひろのご夫妻が見送ってくださる。昨日乗船した上関、室津にも寄港。観光より生活のための船なので客が載るとすぐ出航。それぞれの港に1分も停泊しない。

船のなかで、宿で用意してくれた弁当を食べる。

07：55 柳井港到着

ここで和子はわかれて、米子へ帰る。

知宏は国道188号をひたすら歩く。早朝の瀬戸内海がうつくしい。



10：30 岩国市へ入る。海岸に沿ってひたすら歩く。

12：10 由宇町、歴史民俗資料館。入館、30分ほど見学。

外観が船を模したデザインで、海主に漁業に使われた船の模型や漁具が展示されている豊田織機の機織機があったので、浜名湖一周のおり立ち寄った豊田佐吉記念館をおもいだし、懐かしかった。

13：35 由宇駅

久しぶりに賑やかな街に入った。橋のてまえで小さな中華料理店を見つけ、入る。皿うどんを注文。これも意外にうまく、店主にメッセージを頼む。途中で買ったミカンを半分（5～6個）礼におく。

雨が心配だったが、パラパラ程度で助かった。腹ごしらえをして元気がでたところで、

また歩き出す。

16:25 中洋小学校まえ

学校の通用門が線路に直接開いていて、遮断機が門の扉代わりになっている。地図を確かめていると、下校しの小学生が数人できて、「何してる？」と声をかけてくれた。しばらく裏道を通る。

18:00 南岩国駅

ここでJRを使って岩国へ行くことも考えていたが、岩国まで頑張ることにして、素通り。日が暮れたが、歩道もしっかり整備され、街灯もあって、歩くに困ることはない。

19:35 岩国駅到着。今日は31キロ歩いた。駅前のシティビューホテルへ当宿。駅のコンビニで弁当を買い、部屋で夕食。



歴史民俗資料館



中洋小学校



岩国駅に到着

11月12日（水）晴れ

06:20 岩国駅コンビニでサンドウィッチと、土地の珍味レンコンチップスを1袋買う。店のオーナーと思われる女性が話しかけてきて、メッセージ記帳をお願いした。

駅前に「爆弾投下中心地」の碑がある。広島原爆を連想したが、軍事拠点であった、このあたりもかなりの被害があったことが想像される。

07:50 小瀬川栄橋

ここで山口県がおわる。橋を渡って、これより広島県。橋たもとで朝食にする。



爆弾投下中心地碑



早朝の岩国市



小瀬川栄橋、これより広島県

08:30 大竹市

歴史を感じる、落ち着いた街。

江戸時代に構築された南蛮樋（潮止）の遺跡がある。いまもしっかりした石組がのこり、当時の高い土木技術がしのばれる。

10:45 廿日市市に入る。

天候も怪しいので道を急ぐが、途中砂浜に岩が突き出たヤクショウの岬の岩を伝って宇回し、20分ほど時間を使う。途中アナゴの天井の店があり、宮島口手前でトマトラーメンの看板を見つけたがパス。宮島口で切り上げれば、入ることができるのだが、目標貫徹。

13:40 宮島口駅前

安芸宮島へのフェリー乗り場も見えるが、来週また来ることになるので、これも横目でみながら素通り。

宮島口を通り過ぎたところで、廿日市への標識があるが、どうもよくわからない。とおりかかったご婦人に尋ねると、5分ほど国道を一緒に歩いて案内して頂いた。

15:30 JR廿日市駅

もう一度道を訊いて、JR乗車の予定時刻10分まえに廿日市へ到着。これで、今回の歩行予定は終了である。

15:43 廿日市発=16:03広島発=16:48岡山発=19:16米子着



鼻操南蛮樋遺構

フェリー乗り場 (上)  
宮島口駅 (下)

終着, 廿日市駅

11月24日(月) 晴れ/読売旅行社のバス日帰りツアー

歩行計画に盛り込んでいた安芸宮島の巖島神社と岩国錦帯橋の2か所を、時間の都合で外し、10日後の24日に催行された、日帰りバスツアーを利用し、穴埋めした。

06:30 米子駅前発=山陰自動車道=松江自動車道=中国自動車道=宮島口=フェリー=宮島

12:50 宮島口=中国自動車道=岩国錦帯橋

19:50 米子着



巖島神社

錦帯橋

## 8. メッセージ

年・月・日	7月 26 11. 9
お名前	川口 秋枝
地名	ドライブイン灯台
感想など	<del>岩国市観光協会</del> ドライブイン燈台 頑張ってください TEL 79-16992
年・月・日	平成 26 11. 10
お名前	吉本 栄
地名	柳井市伊保元
感想など	体力勝負がバツ
年・月・日	平成 26. 11. 10
お名前	氏宮くに子 園弘秀人 & 優子
地名	山口県徳毛郡上関町萩島
感想など	萩島へようこそ!! 体に気を付けてがんばってください。
年・月・日	H. 26. 11. 11
お名前	松本 恵子
地名	岩国市由宇町
感想など	
年・月・日	H. 26. 11. 11
お名前	高尾 好昭
地名	岩国市 由宇町神東614-10
感想など	(由宇歴史民俗資料館) お気をつけてお過ごしください!!
年・月・日	H. 31. 2. 17
お名前	高橋 良
地名	岩国市由宇町中央1丁目6-15.
感想など	
年・月・日	H. 26. 11. 12
お名前	黒川 富子
地名	岩国駅、ハートイン岩国
感想など	楽しんでください。 頑張ってください。